

期待される技術者像



専務取締役 坪和 輝英

企業にあって、とりわけメーカーにとって不可欠の経営資源は「技術」であります。

「知識社会」・「知恵が決め手の社会」を迎え、企業の技術開発力の重要性が今後も益々強まることには疑いの余地がありません。

従って、研究開発に携わる技術者に寄せられる期待は実に大きなものがあり、技術者教育も一段と盛んになって参っておりますが、それにも拘らず技術者の人材難・社会の発展に見合った優秀な人材に不足の生じていることも事実であります。

学校教育を終え、技術部門に籍を置き、企業の技術者教育を受けつつ、与えられた仕事に取り組んでいれば期待される技術者になれるかという、事はそれ程簡単ではありません。そこで、先づ“期待される技術者像とは何か”、色々な人が色々な観点から論じていることではありますが、私も次の3つのことを挙げて技術者の皆さんに考えてみて欲しいと思います。

第1は、研究開発に自主的・積極的に取り組む、自らが強い興味をもって取り組む「自主性」であります。この「自主性」を欠いては、カンも働きませんし、苦しい局面に耐えることも出来ません。

自分で感じ、自分で考え、議論し、実行していく自主性が必要であります。

第2は、「情報」です。技術者は当然ながら、

基礎的な情報として必要な学問・知識を習得していなければなりません。しかしそれだけではまだ充分ではありません。実際の研究・開発の場では市場から、周囲から、そして、上下・水平関係からの色々な情報の下に課題を決定し達成に当たります。

幾ら頭が良くても、知識が豊富でも、こうした実際の場での情報が不足しては、当然の事ながら適切な課題設定も課題達成も出来ません。

第3は、技術者自身の「変革と成長」という事であります。研究開発は本来、多かれ少なかれ今迄の知識を否定する、未知に挑戦する、という性格を持っています。

従って、技術者も未知を受け入れ現状を否定出来る気持ち、やや大袈裟に言えばそういう勇気が要求されます。

換言すれば、これによって技術者自身が変革成長していくということであり、またそうでなくては創造的な研究・開発は出来ないと言えるのではないのでしょうか。即ち、技術者の自己変革と成長が研究開発には不可欠であります。

「自主性」・「情報」・「変革と成長」、この3つのキーワードを常に心に留めて明日のコニカを支える創造的な技術を開発し、本誌の内容が素晴らしいものになるように期待して止みません。